

## 23 急性心筋梗塞退院時における 抗血小板薬の処方率

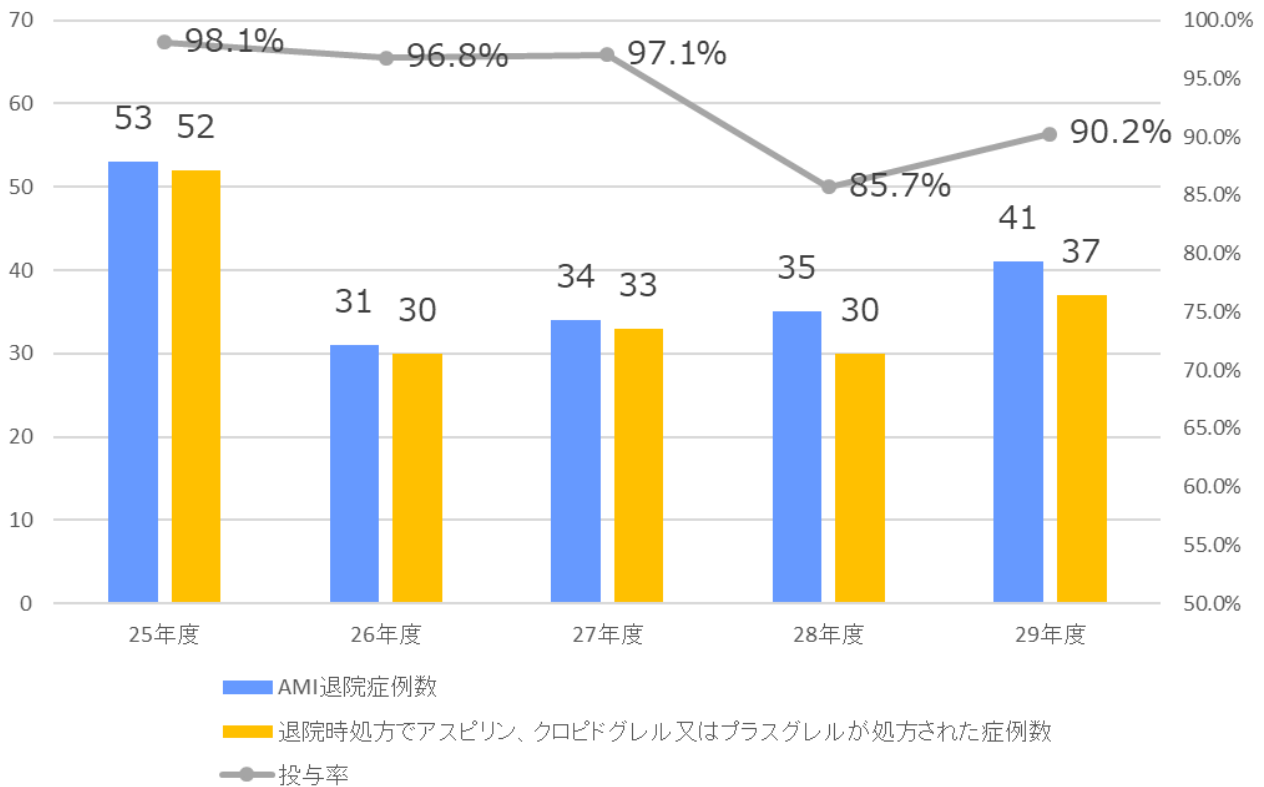
### 指標の解説

- 心筋梗塞を再発させず、心筋梗塞に関連した心血管病での死亡を防ぐ二次予防が必要となる。
- 二次予防に必須とされる薬物治療を退院時に処方導入することはガイドラインでも推奨されており、既に海外でも医療の質の項目に取り入れられている。
- 抗血小板薬(アスピリン、硫酸クロピドグレル、プラスゲレル)は血栓形成を抑制する作用があるため、心筋梗塞の再発を予防するために、これらの薬剤を投与することが求められる。
- アスピリン、硫酸クロピドグレル、プラスゲレルの処方対象とならない患者(例:これらの薬剤に対してアレルギーがあった、冠動脈に高度狭窄は認められたが血栓性梗塞なしの病態像であった等)が分母に含まれていることに留意する必要がある。

分子: 分母のうち、退院時処方アスピリン、クロピドグレル又はプラスゲレルが処方された症例数

分母: 急性心筋梗塞、再発性心筋梗塞の退院症例数

※ 死亡退院、転院、入院時重症度(Killip分類)がClass4の症例は除外



参考値: 91.5%

(引用元: 社会福祉法人恩賜財団済生会「平成27年度 医療・福祉の質の確保・向上等に関する指標」)